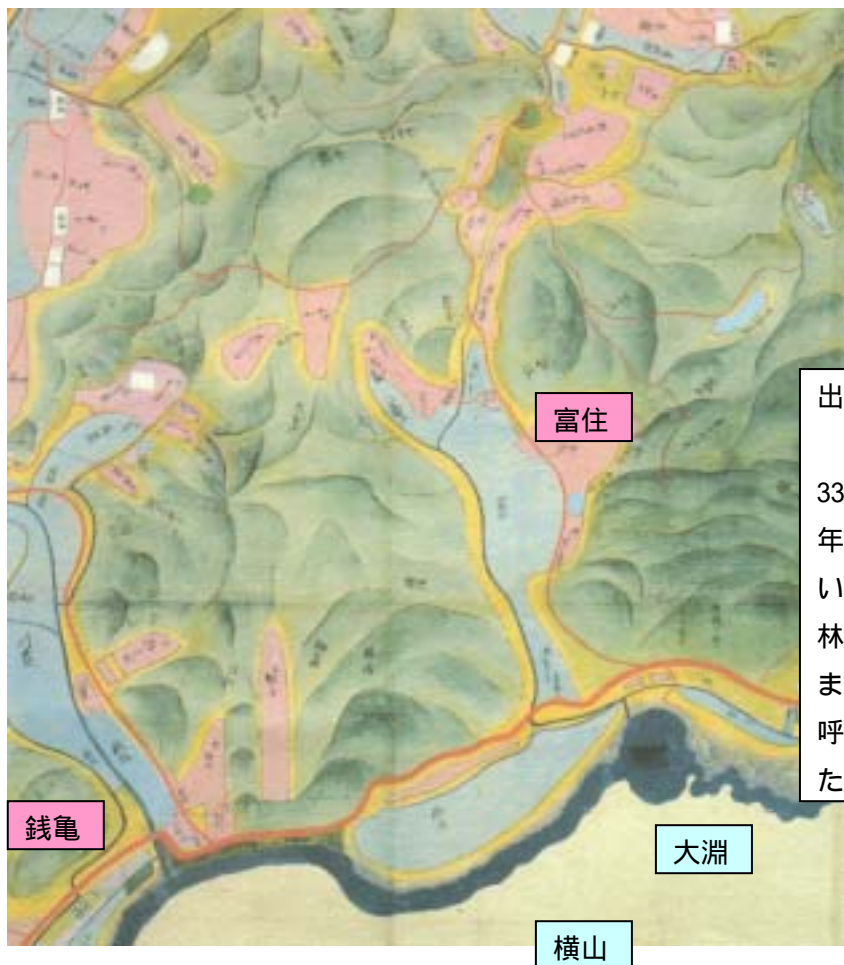


天狗の火だろうという話 = = = 三州横山話より

横山の早川徳平という家に奉公していた村松留吉という男が、ある朝早く起きて、草刈に出かけようとする、時刻をまちがえたのか、星が空一面に輝いていて、なかなか夜の明ける様子もないので、しばらく門口に立っていると、向かいの出沢村のフジウという山を、灯が一つぐんぐん動いて行くのが、見ているうちふっと二つになったと思うと、自分の目を疑うほど、次から次からと増えて行って、しまいには、山一面の火になったと言います。するとそれがまた、いつとなしに一つになって、今度はだんだんに燃え出して、盛んに燃え上がるので、天狗の仕業ではないかと思って恐ろしくなり、家へは行って、戸の隙間から覗いていたそうですが、しばらく燃えていて、そのうちに何事もなく消えてしまったと言いました。明治が三十年頃のことです。



右手が富住（フジウ）の山
手前は横山橋



出沢地区に伝わる古地図

この地図は、延寶年間（約330年前）に描かれ、天保14年（162年前）に書き直されています。富住は、今は一面杉林ですが、この頃（20年位前まで）は水田と畑が広がって、呼び名通り。豊かな土地でした。